

壁上土庚子歳

元旦

令和二年

第 48 号

令和2年1月

新 謹

賀

日蓮大聖人のおことば

事理供養御書じりくようごしょ

魚は水にすむ、水を宝とす。

木は地の上に生いて候、地を財とす。

人は食によって生あり、食を財とす。

いのちと申す物は一切の財の中に 第一の財なり。

のである。

健治二年、聖寿 五十五歳

(現代語訳)

23

というのはあらゆる財 の中で最も大事な財 を財とするのである。 とする。人間は食物によ に生えるゆえに地を財 を宝とする。木は地の上 魚は水に棲むゆえに って生きるゆえに食 な 物 水



阿仏房の遺骨を身延へ届ける 遠藤盛綱 レ」と

本 心 抄 れたお手紙です。 は \mathcal{O} 大聖人が、 御供養に応え 信 徒 7 カン

であり、 重 を御 な白米を御供養され . うも 抄では、 この抄の後部 間 丁寧に 違 最大の功徳があ あなたの命その 養したのと同 な は 命を支える貴 教えら と励 切 0 まさ 財 れ 成 る U

ない。 界に満 う を説 うと述べられ、 n 火のごとく、 生命 ば火は消える。 なものである。 れ に代えることはでき \mathcal{O} かれておられます。 ば それゆえに生命 重要さと、 生 ちた財であっても 命は絶 食物は油 食物 え 食物 命 油 てしま の尊 が 供 が 尽 は \mathcal{O} X 養 無 き ょ 灯

盛綱の孝養 (各御遺文解説書参考)

の子で、 を継 ○ 遠ぇ れています。 改 後ごた阿が人 遠 8 阿仏房と称し 藤 7 生を法華経信 です。 寺に 盛綱 で 日 熱心な両 は阿 蓮聖人に したと伝え また、盛綱 やがて入道 仏房夫 親 **図** 仰に \mathcal{O} · 帰 信 を 捧 仰

> そば 千日 延に た。 品を携えて訪れたのです。 \mathcal{O} 度目の九十歳の時 た 自 冏 、希望し、 尼に励まされ、 入山 14 って佐渡からご供養 日に亡くなってい 一房は、 埋葬されることを \mathcal{O} してか が 翌年の三月一 日蓮聖· 日 5 蓮聖 三度に 人 が 死 \mathcal{O} 後 身

その子 盛綱 7 け されました。 七月二日、 弘安二. 7 ます。 阿仏房の死を深く悲し は、 身 母・千日尼に送ら 、盛綱によって果 に感激するととも 父の遺骨を首に 年(一二七 \mathcal{O} 阿仏房 日蓮聖人 庵室に 百箇日を過 \mathcal{O} 到 悲 、は盛 九 れ 願 カン

> は手厚い回 る \mathcal{O} 佐 ました。 でし 渡での生活を回 た。 向を受け 阿仏 房 \mathcal{O} 潰

中で第

 \mathcal{O}

財である

「 三

孫

日満も後に北陸方

面

 \mathcal{O}

世

界

に

遍

澢

す

るも

身

総導

師

て活

躍

ま

値

す

-る

ŧ

の

有

るこ

ح

説かれて

(日蓮聖人御 代記 画 引用



當山守護神

最上位経王大菩薩

當山勧請の最上位経王大菩薩



すの 様 です。 が、 · 安 Ш 守護神堂、 置 最上位経王大菩 され 7 お 最 5 上 段 n 薩 ま 中

は、 尊 上尊とも称されます。 1 ぼさつ)」 最 よう 御利益を一言で表す 上 最上位経王大菩薩 稲 お 祀りされ 荷 で、 きょうお 0 <u>_</u>" 祈 略 る 祷 L う 最 て最 本 本 3 殿 だ 尊

> ます。 の稲穂 みを をも えら け、 5 五 は厄災をなぎ払う象徴 在であると伺えます。 名より、 てくださる最尊最上 一穀豊穣、 開 和 0 れる法華経のこころ 慈悲 運 は て、 らげ安ら 経 などの福徳を有 実りの、 衆生の悩み苦 典 商売繁盛、 お \mathcal{O} U 王様とた づぎを <u>_</u> . 右手 与 左 \mathcal{O} \mathcal{O} 厄 え 除 鎌 丰 存 た 御

受け、 菩薩 当山 の岩 天皇 \mathcal{O} 願 早 を 天平勝宝四 行 開 朝 普 窟 0 門品 病 基 主山 瑞雲たなびく中 ます。 気 7 報恩 平 法 \mathcal{O} 中 年 呪を 華 癒 大師 腹 経 \mathcal{O} 七 \mathcal{O} 唱 観 勅 は 五. 畳 え 孝 日 世 命 祈 を 謙 目

> 恩大 た。 さ 尊影を刻み、 白 天 て祭祀供養されたところ、 皇 れ 狐 たの 師 12 \mathcal{O} 病 乗 は が 自 0 最上尊です。 快癒され 5 たお姿で応 霊域に安置 刀をとり ま 御 報 現

が最上 恩 願 年 伽 \mathcal{O} 大 藍 その 病 所 七八五 師 龍 \mathcal{O} 気 稲荷の 建立を発願 後、 王 平 Ш 報 癒をに 桓 神宮寺」 l武天皇^è 礎とな 建立され る 祈 為 願 に る も自 です。 延 堂 た 暦 た 勅 字 報 \mathcal{O} 兀 5

城 六 置 吉 \mathcal{O} 年 手 3 称 水 公 約 ます 厚い れ 日 3 攻 八 ます。 円 れる 8 ょ が、 六 世 庇 0 n 護 年後、 際に 別 御 H \mathcal{O} 領 尊 \mathcal{O} ょ 樹 主 仰 ŧ 堂宇 場 像 備中 に V) کے 心 • 花 所 は 篤 池 再 高 12 元 は 慶長 房 興 \mathcal{O} 1 消 宮 安 秀 弟 本 松

> 寺 れ 門 来遠 稲 繁栄を迎えま 荷 近 Ш ょ 妙 り 教寺」と改称、 信 仰 す。 を集

とか 当 が 至 \mathcal{O} 規 一るま 模 高 みで本殿や本堂、 Щ 昭 5 な山 まりました。 は 和二十五 近隣を焼き尽く で罹 更に霊威あ 火事が 王 災を免 門を焼 年 おこる 失 庫 n V) す 九 た 裡 ŧ 大 た 五.



岡山県岡山市稲荷山妙教寺本殿

ホームページより引用!

護持会会長·筆頭総代 臼井 義光

檀信徒総会で挨拶される臼井筆頭総代

なら

れ

同

安心致し

7

お

ります。

が、

順調に快復され元気

た

徒

謹 んで新年 0

皆 並 に 様 妙 元 に 教 行事にご協力くださ は 寺 寇 平 護 粛 教 素 持 会 ょ n 檀 \mathcal{O} 妙 数 信 教 徒 Þ 寺 \mathcal{O} \mathcal{O}

> いう思 シデ 調を 上げます。 1) ま 同 昨 崩 年 L はご 変 1 され 7 心 もよら 心 住 配 ょ 見 入 院 舞 職 致 ŋ な わ さ 感 上 ま れ 人 謝 れ 門 L ア ると が 申

体

ご家族 整 す。 庫裡 に までには完成する予 事を行っております。 盤に入り現在、ご住職 ょ 扨、 備 又 年慶讃 る 事業による山 當 階の をお迎えする 西鉄春 大野城 山の宗祖 記 リフォー 日 念事業も 市・春 原 御 門 駅 降 定 周 ム エ 今春 日 上 前 誕 市 終 八

お慶びを申し上げます。

す。 備に 思っております。 Ш 定だそうです。 年六月ごろに終了する予 \mathcal{O} 市 \mathcal{O} は 道 整 担 門と駐車場入 道 当の 今後も境内の充実と整 努めてまい 備 路改修工 \mathcal{O} 改修 等を考え 方のお話では 工事も市 事終了 寺側として 7 ŋ ŋ お П 7 り 後に 役 周 ま 辺 所

効果ガ 舞わ どに 権主 が < うに起きる大雨や台 1 影響され先行きの見 韓をはじめとする諸 口 『復と言い 問 昨年は、 世 状態です。 礼 わ 導 より甚大な被害 界 れています。 各 ス削減を考え の日本経 地球規模での いながら米・ 玉 国内では安倍 0 又、 姿勢と 済 毎年 は るべ 景 温 風 え に 玉 中 \mathcal{O} Ĺ 見 な な 気 政

たお釈迦様の説かれ 今こそ私達はご縁 を た 頂

1

と 正 法 る時だと思います。 て慈悲心 華 自 義 経 感 中 \mathcal{O} を 御 \mathcal{O} 心 教え 持 あ 的 る な 0 て 強 考 を 基 え 行 11 を 意 す

晴 挨拶と致します。 ことをご祈念し、 南無妙法蓮華経 5 本 年も皆様にとっ 年とな 新年 ŋ ま て 0 す 素

護持会より

1,000円 年間 12,000円

会費納入はいつでも受付けています。

問合せ 092 (581) 1266

婦人会会長 植村 德



を叩いて唱題修行される植村 会長

目

せ

<

族

明 けまして めでとうございま す

0 \mathcal{O}

1

ただきました 行 たこ 事 平 昨 か を 成三十年 年 げ 見て が と心 ご協 \mathcal{O} います。 日さ 心 カン 力 年 + \mathcal{O} 5 間 1 れ 地 励 深 た 婦 涌 月 4 だ 人 \mathcal{O} き É 会 感 日 声 謝 ま 11 ず

ŋ \mathcal{O} 1) ま 方 1 す。 が \mathcal{O} カ < لح 思 な 1) 11 残 木 す 0 シと

お

11

ろ

で代 カ が てのことと思いま 絶 が が 7 私 皆 は え 本 頂 Þ 受け 当に 最 な 健 番心配な事で **(**) 近、 康 ** \ て で仲良な 家 継 末 毎 庭環 永 が 日 < れ お < 境 す。 7 \mathcal{O} 我 唱 笑 が が お え 1 あ顔 家 題 7 < 家

護

うな に気付い 仕活: 皆様 で顔 くことが ましょうか。お寺でのご奉 会 代 持 \mathcal{O} 中 婦 動 続 話 を 方 で娘さん 人会会 かされます。 合わ Ź の一つ一つ、 は が 不可欠です。 せて } 弾 7 んでい せると笑 かがでござ 行くに を 活 ...動 お嫁 この ること を 1 みん は 絶 顔 で さ ょ 次 さ で な 1

 \mathcal{O}

よう ま ず。 な ま W か。 れ れ す な 若 る お 様 行 1 \mathcal{O} 互. お 事 方 で 7) 願 に 々 は \mathcal{O} 参 との 1 な 距 申 加 離 < 1 会 上 で が げ 3 近 が

ま

に ŧ かと思い 0 各々の家の 繋って行く 7 れ 行く事 は 私 ・ます。 達 だ \mathcal{O} 信 \bigcirc け 菩 仰 で で 提 \mathcal{O} は 寺 継 は な を な 承

おりま 行が 方 機会だと思います。 法 目を唱えることが おこない心 日 のご指導に 話 [曜) 来る、 \mathcal{O} あ で ŋ は婦人会主催 参 仏 うます。 一月十 加 事等を学ぶ を ょ \mathcal{O} 底 り お お上 九 唱 カン で 日 多数 5 題 一人さん き \mathcal{O} (第 **(**) 行 寒修 お ۳, 題 を

に ま 最後に、 元 た 寇 芋 袁 教 掘 昨 会 1) 年 で 収 穫 開 催 月 さ + で はれ 日

りに早く過ぎ去り、これ

で

0

てみて下さい。

7

てきました。

ところが

庭

世

き

日

日

が

あ

ま

が

0

Þ

る

所

は

ざ 皆持 加 土産 \mathcal{O} 外 婦 ょ り 方 1 1 か 人会はもちろん、 ちきれ をいただきまし É ました。 た ま 5 だ 大 で 変 き 大 若 勢 な 多 あ 1 今回は り 方 ほ か 収 が 方 ど 穫 とうご 5 そ た。 0) 量 昨 n 以 お で 年

やご家族、 皆様· ただ お 1 申 世 年 方 し上げます。 話 で · た 方 にとって あ 頂 り た英 ま 準備 々 す に 典 今 様 を 心 主 年 祈 ょ が 7

致 ます。 2,400円

婦人会より

★婦人会費納入に

·年間

会費納入はいつでも 受付けています。

問合せ092(581)1266

信行会会長

遭わ

れ

た方

 \mathcal{O}

事を

な

被

害

が

発

生

L

被

、変心が痛みます。

被

玉

規

模

で起

こり

各

地

松尾 次



あけまして おめでとうございます

ます。 ょ り 檀 力 信 信 頂 行 徒 会 き 0 皆 感 活 様 動 謝 にご理 申 に L は Ŀ 日 げ 解 頃

える事 大 ょ さて、 昨年も 信 などの が出来ま 行 昨今は地震や大風 会 皆様 自然災害が 活 動 0 L ご協 を た。 無 力 事 全 12 終

> 即 位 です。 広範 が 争 民は できる日 れたお言葉の中で「日本 の内外に即位 を迎えました。 ら令和となり新し に戻 も早く安心して元 年かかるそうです。 ことを思い出しまし 希望します」と述べ 昨 年は五 囲 もとよ に れるよう祈る 1 伴い の無い 南無妙法蓮華経 一で復 々が り世 興までに 元号も平成 月に新天皇 · 平 和 送れる事 の宣言をさ 新天皇が 界 で安心 られ ば \mathcal{O} *(*) \mathcal{O} た。 生活 時 日 は 人 か を 国 代 た Þ 玉 か V) で

月 年 南無妙法蓮華経」 日 (建長五年) 蓮 昇る朝日 大 聖 人は一二五 に 向 四月二十八 ーと高 かって 5

思うと 害 害 で 甚 えら 願され 捧げられました。 正 5 社 か ょ 12 れ、 会 Þ を 唱え れ を 1 0 又、 太広宣 築 救 教えに導こうと 7 心にお 5 Ż すべ 流 為 · 平穏 れ、 で 布 布 ての も多 題 教 に で 平 目 [を唱 生を 努め 和 < 々を

受け ある私 合掌 参考にして書いております) 大聖人 を述べさせて頂きました。 年 して参りたいと思います。 て少 · 頭 部、 日蓮大聖人 継ぎ、 12 お上人様からのご法話等を \mathcal{O} あた ĺ 達 教えを学び実践 はそのご意思を でも皆様と共に 信行会活動 り新たに の末弟 決意 を通 子 で

※令和 元 半 期活動

報

八 月 四 日 H

> 休会 盆前大掃 除 沢お清正 \mathcal{O} 為

九月一 日 日 日

な

 \mathcal{O}

処に」) 僧正 県修法師会会長、 孝性寺住職 催海上施餓鬼講 第 D V 48 D 講題「仏さまは (前半部分) 口 布 西 教ビデオ鑑 筑 門 演) 佐 中 野 田 前 Ш 福 主 賞 郡 何 明 尚

誓

·月六日 日 日

D VD布教ビデオ鑑 同 右 (後半部分

一月三日 $\widehat{\mathbb{H}}$

於 ·· 年 D V 九州教区大会(平成30 日蓮聖人降誕八〇 11 福岡サンパ D布教ビデオ鑑賞 月 28 日水曜 レ 日) ス 〇年

一月十日 **日**

掘り収穫祭協賛 元寇園教会主催 秋

十二月二十二日 $\widehat{\underline{\textbf{H}}}$

施餓鬼総供養会に併せ

青市 信行会主催特別講演

講題「便利さの裏でな高寄泰道 僧正 保 妙経寺 住職

信行会活動は、

時間半ほど(茶話会含む)時間…昼十二時より約一は諸行事の為休会します)祭終了後(但し一月と八月毎月第一日曜日、月例祈祷

ております。 皆様のご参加をお待ちし会費…無料



宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年

慶讃記念事業について

事業担当長

臼井 義光

▼第二期事業について

工事内容

事(一月末終了予定) 、庫裡三階リフォームエ

今後予定されている事業

二月予定)二月予定)大○○年報恩慶讃大八○○年報恩慶讃大

2年着工予定) 口周辺補修工事(**令和** 二、 山門入口・駐車場入

> ※ 後 誕八○○年記念、 六日~二十八日 おりますが、本年五月二 圓 の日程にて日蓮聖人御降 ております。 .頓寺合同団参を計画 12 t t 詳 しく記 (二)泊三日 妙教寺 載 致

し上げます。
カの程よろしくお願い申思いますが、御理解・御協と少々期間がかかると

慶讃記念事業委員会宗祖御降誕八〇〇年



早い仕事より確かな仕事、技術と信用の

(有)臼 井 組

建設業

〒811-2108 福岡県粕屋郡宇美町ゆりが丘 4-3-9

TEL 092-932-7397

間仕切壁工事



ボード張り工事



解体工事







巾木工事



床板張り工事



慶讃記念事業委員会よりお知らせ

いよいよ、令和3年(2021年)2月16日に宗祖御降誕 800 年の祥当 日をお迎え致します。よって當山の宗祖御降誕 800 年記念事業勧募 を令和3年2月16日をもって締切らせて頂きたいと思いますので、 檀信徒の皆様の御協力・御支援を頂きますよう、宜しくお願い申し上 げます。

兀窓 園 教 会より

高野英典

お祝詞を申し上げます謹んで新年の



し上 協 諸 活 旧 げ 賜 動 年 ま 並 中 り 衷 は に 心 奉 元 ょ 仕 寇 活 嵐 *b* 御 教 動 等 会 礼 に 申 \mathcal{O}

整 は 内 は 備 あ 昨 \$ りま ま 年下 号でも報告さ 所 しては、 老 \mathcal{O} 朽 化 半 す 修 境 が 期 復 内庭 に伴う 境 少 \mathcal{O} 内 活 を Ĺ \mathcal{O} せて 行 地 整 ず 動 教 لح 備 内 0 1 슾 ま 頂 で で \mathcal{O}

> じめ、 又、 ウム 光 が とし していただきました。鬱蒼かわらず丁寧に手入れを きま 丈 明るくなり (写真③)、 での作業(写真②)にも +境 ょ \mathcal{O} O内 り 本 的 した 当たるようにな 低 ていた庭がおか 的 約 ほ 庭 野 松や椎の の巨 野 株 どある槇の木をは 五. 善 1 が 分け (写真①)、 様ご自身による、 植 追 木を含め 鉢 物にもよ 様 妙 0 のご 教寺元章 木 シンビジ 等、 指 < げ 約二 ŋ 高 導 総 ま 日 背 で か所

活動) さん 1 日 \mathcal{O} に 的 方々に菩薩行 も冬の . 参 野 加 様 以 頂 寒い 外にも き、 夏の 日 (奉 に たく 仕

> ただ 御礼申し上げま 加 内 庭 7 外 \mathcal{O} 、きま、 ただきま \mathcal{O} 草 美 |1|化 ŋ B 。ご協 草 業 た を 取 方 L り 力ご 7 等 々 参 \mathcal{O}

幼児 ど 開催 お 見 まし 頂い 来ま \mathcal{O} 様 収 \mathcal{O} 加頂く方が増え、今回 穫祭」を昨年十一月十 お 口 人五十四 を 参加を頂きました。芋、児四名の総勢六十六・ 穫量 六 沢 妙 方 配 た。 教寺 たさつま芋の 月に皆様方に L 収 え 12 Щ 11 り に た。 穫し、 Ź は たしまし も増え約千二 持 名、 持 せ な \mathcal{O} 9 お ちきれな て 0 参加 十一月十 小中学生八 帰 頂 た 施 た。 餓鬼 方 つ 頂 て 秋 事 々に 植 毎 1 会に 頂き 百 え が た · 日 に 七日 は 年参 11 \mathcal{O} 出 ŧ ほ 皆 キ 名名 7 大 収 \mathcal{O}

だきます。

台所付近に小動物が侵入事業としましては、最近

も明る なく 危険 関入 場 と交換しました。 L をし 以上ご報告とさせて 入 に \Box を り口の蛍光灯 Е な 脱 が 食 なっ ŋ ると 塞ぐ工 D な為、元 ました。 あ 衣 ベ 灯に取り変え、 Š П 場 物 0 てい ま 新 下 \mathcal{O} を でが 床 \mathcal{O} 々あって着 た水銀 ** \ 通 \mathcal{O} (写真④) 大変暗 場所 から ż 修 L り Е か 復 れ \mathcal{O} D 玄 5 1 灯 工 る 柄 風 関 を < 灯 た カ 玄 事 夜

霊 第二 拝 供 彼 教会です。 我 す 養 元寇園教会は、元寇 うる場 次世 霊 海難水死者の 両 場 軍 界 所 کے 殉 難者 大戦 して蒙古 建 <u>\f</u> 戦 を 霊を弔う さ は 死 れ 塚 者 ľ \mathcal{O} を 役 英 \Diamond

志 さ れ Ш 第 た 法 五. 華 世 経 日 貫 \mathcal{O} 御 上 人 え が

れ、 £ す。 え しし 私 最 を 年が方 建 \mathcal{O} お 後 同 出 達 お 立 遠 柱 Þ 沂 法はに 様、 弟 願 لح 来 を 中 運 信 寺 لح 0 \mathcal{O} 俗 \mathcal{O} に 一下も依よ る 子 心か を 75 徒 族 集 カ お 進 申 元 掛 勢 間 Þ \mathcal{O} 1) 力 た 6 る 師 寇 法 動 皆 読 そ た け わ 力 丸 を 華 園 僧 ず だ な 願 2 \mathcal{O} 様 お 0 Ш 教 日 う さ な き 借 い信 な に に に 言 家 を \mathcal{O} 7 貫 ま 王 住す さ ま 有 依ょ 弔 方 族 は 1) 少 7 仰 £ 0 玉 あ 縁 (3) 御 す 1) 1 5 が 妙 7 う お ŧ Z (2)経 あ教 対 は ょ 教 ま 本な \mathcal{O} で \mathcal{O} 事 が 足

写真② 高所で剪定作業 をされる的野様

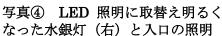
写真① 株分けされ花芽 がついたシンビジウム

自 忘 薩 7 上 れ 私 ま 5 \bigvee 共 \mathcal{O} か 弟 中 V) 行 5 $\bar{\mathcal{O}}$ 御 子 あ は 人 V) 指 Þ 12 師 導 t を 僧 法 よう 勧 日 日 実 お \Diamond 貫 相 K

合堂

ま









写真③ 剪定されて明るく なった元寇園の庭



拝む心で尊い品を…

仏壇仏具·神社仏閣総合企画

本店

〒819-0373 福岡市西区周船寺3-9-4 TEL(092)807-0500 FAX(092)807-0501

川端店

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 1F (博多リバレイン1F) TEL(092)271-0456 FAX(092)271-0464

(株) 機一体 は は は を 引き がった に " として 再出発 いたしました。 今後 共変 わらぬご 愛顧 宜しくお願い 申し上げます。



台所の外壁を金網とブロックで 小動物の侵入をストップ



台所の一部床板の張替え



奥のお風呂脱衣所の床板張替え工事





本堂にてお参りされる岩田様

っております。熊本に住ん月からお寺にお世話にな でい \mathcal{O} 母に連れられお寺さんに お 私 寺に 縁を頂い た祖母は熱心に近 が子供の頃、 . 通 つ ておりまし 昨年 よく \mathcal{O} 所 九

力品第二十一の「因縁目があると、また、如う

如来神

事に定められた運命)」、

義(人として行うべき正

「髙嵜泰道 僧正の信行会主催特別講演

お参りに行ってお

りま

褶屋郡 岩田 真お話を聞いて」

の世でしないといけないに命があるという事は、こ を頂け 道僧 使命がある、果たすべき役 変有難く感じております。 日も浅いのに、今回 お寺で ご法話の中で、今、ここ 正 \mathcal{O} たということは大 お お話を聞くご 世 話 に I高嵜 な 0 泰 7

投

稿

欄

信行会主催特別講演にて講師を勤めら れた妙経寺住職 髙嵜泰道 僧正

指

導 お

願い

申

し上げます。

せん。

けなくて

申

訳

け

あ

り

ま

境

今後とも皆様、

よろしくご

「芋掘り収穫祭」に参加し

元寇園

教会

なりました。

大野城市筒井 林田 和也

だき、芋の大きさと量 っくりしました。 初 め 7 加させ てい にび た

らば、

周りの

人に説き広

8

い道)」、

実

(内容

中

この教えを知ったな

られました。

法話を拝

聴させ

7

頂

先ずは今の私が果た

なさいとおっ

Þ

って

お



ていく事だと感じました。

ŧ

たくさんお

話

V)

たのに少しし

カン

自

然に恵まれ

天気に

人とのご縁を大切

縁を大切にすること、

周

V)

役目とは、

やはり頂い

たご

さなくてはい

けない

今の

芋掘り終了後の昼食会にて (筆者手前)

き楽 食事を頂き、 また、 から触れ合うことがで 昼は心 日を過ご 皆さん親 \mathcal{O} こも せ 切で 0 ま た

信 た。 徒さん方がまと 和合集団だと思 ま 0 1 ま 7

心遣い 恵ま ともなく掘れて、 触りました。 備していただき、 って芋のつるを切 \mathcal{O} 中で、 れ 、 に 嬉 , た 志 久しぶり 賀島 皆さん 皆さんの \mathcal{O} 面倒 0 が前 E 自 ちに 7 なこ 土を 淮 ŧ)



, (向う向き)

方々、 でおいしかったです。 いただきました、 速 現地 お土産 妙 焼き芋と天ぷらにし た松尾様に心 た方、 教寺 上げます。 お誘いのご連絡を \mathcal{O} で頂 準 の関係者 参加され 備 いた芋 を か ホ 5 0 7 ク ま 方 御 ホ 頂 た 7 た 々

がとうございました。 お招きいただい て あ V)

大野城市瓦田

そんな素敵 8 までキラキラした海を 朝 ながら海 快 か たが、 晴 5 トした「芋掘り収穫祭」 バ に . 恵ま、 ス 久しぶりに童心 岸沿い に に な光景から 乗 れ た · つ を走る。 日 て現 曜 え 眺 地

幼少の頃に戻って芋を掘られる 藤村様

えた素晴らし むことが出来ました。 した。 お芋 よう 加 うな… かけるお芋とは違 なと初 供 さ た 恵 0 <u>\f\</u> \mathcal{O} 起こせば、 は、 派 0) れた皆さんと共に、 4 大 見 頃 日頃、 そ をし な畑に案内され、 きな立 8 まねで掘り出 見た事もな 0) は 私に 1 度 心配 程 ・お芋。 ス 経 派 か 度 芋掘] もできる な でし り \mathcal{O} 験 لح 1) 記 お n 苹 た た 自 憶 は で 事 て け

た

5

見

が

ょ

子

0

て、

遠足気分を楽

抱え だきました。 お芋 くおり、 収 気 うくらい、 が 穫 る が 付けば、 できた ほどお 帰りには テナに 土産 のだろう? たくさん 体どれ · 積 両 ま 手 n で \mathcal{O}

した、 また、 の数々。 真心のこもった お昼に いただい き お ま 食

な時間になりました。 した、このひと時 ご主催 参加され 出すであろう心 頂 た方 7) た 元寇 Þ 豊 遠 共 後 教 Z

ました。 ただき、 た現地では、 会のご住職上人をはじ 関係者の皆様方、 してくださった松尾さん スの りがとうござい 運転をされ 芋を掘り起こ お招き





10 枚入り 540円 (本体 500円) 1.080 円 (本体 1.000 円)

名菓ひよ子 イオン大野城店 大野城市錦町4丁目1-1 イオン大野城1階 TEL-FAX 092-592-2126





8個人り 1.188 円 (本体 1.100 円)

檀信徒様のお買い上げは、当店に限り 10% 引きとさせていただきますので、ご気軽に さいませ。お待ちしております

日蓮聖人御降誕800年記念

妙教寺·圓頓寺合同

身延山・誕生寺・清澄寺団参のご案内

日 程: 令和2年5月26日(火)~5月28日(木)2泊3日

主な行程:(26日)妙教寺―福岡空港―静岡空港―身延山(久遠寺参拝・ 思親閣参拝・御廟所参拝)―身延泊

(27日) 身延山朝勤参拝一誕生寺参拝一妙蓮寺参拝一小湊温泉泊

(28日) 誕生寺朝勤参拝―清澄寺参拝―勝浦・妙覚寺参拝― 羽田空港―福岡空港―妙教寺

募集: 20名 (二ヶ寺合計)

団 費: 1人120,000円(交通費、宿泊費、御開帳料、食費、旅行傷害

保険料含む)

※参加人数に達し次第締め切らせて頂きます

※詳しくはお寺までお問い合わせ下さい。

TEL 092-581-1266 FAX 092-581-1290

E メールアドレス $\underline{cccc000000550@tempo.ocn.ne.jp}$

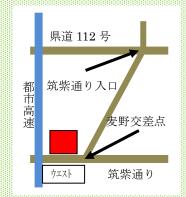


スマイル車談

民間車検工場

井上自動車株式会社 福岡市博多区麦野 1-1-38

TEL: 092-581-4607



行事スナップ



11/17 順忠院日貫上人17回忌 役員並びに檀信徒の皆様約 50 名の参列を頂きました。

編集部より
編集部より

間・質問などよろしくお願いたついてまたは、体験談や疑いであります。内容はお寺の行事がります。内容はお寺の行事があります。内容はお寺の行事があります。内容はお寺の行事があります。内容はおきでは、皆りをします。



11/10 元寇園教会芋掘り 収穫祭 ビッグサイズのお 芋に大喜びの子供たち



10/14 お会式桜花つくり 檀信徒・役員 20 名の参加を頂 き本堂にお供えさせて頂きま した



12/22 年末総供養会 信行会主催特別講演 本年は 宗像市妙経寺住職 髙嵜泰道 僧正にご法話を頂きました



12/15 年末大掃除 役員並に有志の方による 山門の掃除

人と人空間の調和



株式会社 アイプランニング

〒811-1313 福岡市南区日佐3-32-11

Tel/FAX 092-210-6183

建設業全般 2×4住宅

公共工事 2×4輸入住宅

令和2年寺行事予定(1月~8月)

◎6月7日(第1

白曜)

◎1月1日(水)

初参詣祝禱会

◎1月1日~3日(水~金) 新春三ヶ日一部経読誦会

午前8時~ 11 時まで

◎1月19日(第3日曜

婦人会主催寒修行 午前10時より

◎2月2日(第1日曜)

月例祈祷祭·節分追儺会 午前10時より

◎2月23日(第4日曜

◎3月1日(第1日曜) 月例祈祷祭 月施餓鬼供養会 午後1時より

午前 10 時より

〇 1 月 12 各家勧請守護神祭 開運星祭り 新春福引き大会 午前1時より 日(第2日曜

年頭施餓鬼供養会

午後1時より

月施餓鬼供養会

◎3月17~23日(火~月)

◎6月28日(第4日曜)

別院芋苗植え会(予定)

午前9時より

月施餓鬼供養会

午後1時より

春季彼岸棚経廻り

◎3月29日(第5日曜

春季彼岸施餓鬼供養会 午後1時より

◎4月5日(第1 ·日曜)

月祈祷祭

◎4月12日(第2日曜) 釈尊降誕会花まつり

月施餓鬼供養会

午後1時より

◎5月4日(みどりの日) 開催日変更に付ご注意下さい)

月例祈祷祭 午前10時より

◎5月26~28日(火~木)

妙教寺·圓頓寺合同団参 身延山久遠寺・誕生寺・ 清澄寺参拝

◎5月31日(第5日曜)

各家勧請守護神祭

早朝より

◎7月5日(第1 月例祈祷祭 午前 10 時より Η

◎7月19日(第3日曜

月施餓鬼供養会 祈禱会 午後1時より 土用丑秘法ほうろく灸

◎7月26日(第4日曜) 當山盆前大掃除 午前9時より

◎8月2日(第1日曜) 月例祈祷祭

三沢清正公堂大掃除 午後1時より

◎毎月第1日曜日は

信行会(12時より)

(1月・8月は

諸行事の為休みます

◎8月6~15日(木~土)

盂蘭盆棚経廻り 早朝より

◎8月16日(第3日曜)

盂蘭盆施餓鬼供養会 午後1時より

※行事予定日・時間は、 発送します案内でご確認下さい。 頂くことがありますので、事前に 変更させて

≪御霊屋

○近代的格調高い

○耐久性にすぐれる ○御先祖様をおまつりするのに 相応しい荘厳な佇ま

、不可能な方は、分割払い制度をご くは、お寺又は護持会事務局までお問い合わせ下さい。

581 1266

行 所 非 売

品

発 大野城市錦町二丁目一番三 春日 Ш 妙 教 寺

〇九二(五八一) 一二六六